

フイリシハイスミレ

<スミレ科>

以前はマキノスミレの斑入り型と考えられていましたが、2003年にスミレの権威いがりまさし氏によりフイリシハイスミレと同定されました。西部丘陵一帯には多いのですが、北陸地方からの隔離分布で、貴重な植物です。 (花期5月)



ヤマユリ

<ユリ科>

太平洋要素植物の一つですが、日本海岸の方まで進出している数少ない種の一つです。西部丘陵地区では、少年自然の家の職員によって守られてきた植物です。花の美しさや、球根を食べるため、激減した植物です。

(花期7月~8月)



マダラナニワトンボ

<トンボ科>

県民の森の琵琶沼、はんのき沼、曲沼などで8月下旬頃より姿を現します。生息地が低標高の高層湿原に限られるため、全国でも激減している種です。発生源である琵琶沼は山形県の天然記念物に指定され、保護されています。



オオルリハムシ

<ハムシ科>

ハムシの仲間では最大の種で、メタ リックな金緑色に輝く大変に美しい種で す。湿地の植物のシロネを食べて幼虫が 育つために、生息する場所は限られます。 環境変化に弱い種で、近年激減している 昆虫類の代表ともいえます。

(出現時期7月中旬~9月中旬)



ゲンゴロウ

くゲンゴロウ科>

県民の森の湖沼に生息しているゲンゴロウの仲間では最大の種です。体は黄色で縁どられ特徴的です。成虫、幼虫とも肉食で、動く小魚などを襲って食べます。近年、全国的に減少している種で、貴重な産地といえます。

(出現時期7月中旬~9月中旬)



カモシカ

<ウシ科>

里山から高山までの森林で普通に見られ、多くは1~2頭で生活しています。 食べ物は植物だけで、樹木の葉が主な栄 養源ですが、農作物や果実などを食害す ることもあります。国の天然記念物で、 山形県の県獣です。



ニホンザル

<オナガザル科>

普通は群れで目撃されることが多く、 まれに1、2頭の離れザルを見ることも あります。山形市では奥羽山系の低山帯 の森林が群れの主な遊動域ですが、しば しば農耕地にも出没して農作物に被害を 与えることがあります。



ハクビシン

くジャコウネコ科>

一見タヌキやイタチに似ていますが ジャコウネコ科の動物で、外来種とみられています。近年内陸盆地の低山帯や集 落周辺で分布域を広げ個体数を増やして 定着しています。畑作物や果実類を食害 することがあります。



ヤマアカガエル、

<アカガエル科>

山麓から1000mを超える山地まで、広く生息しています。山形市少年自然の家の運動広場側の水路では、毎年3月になると、雪の中での産卵が観察されます。なお、本種に似ているニホンアカガエルは、本市ではほとんど見られません。



ツチガエル

<アカガエル科>

体は灰褐色で背面に多数のいぼ状突起があるので、「イボガエル」と言われています。手などで捕まえると皮膚から粘液をだし、これが臭いので、嫌われることが多いカエルです。本市では、平地から山地まで広く生息しています。



スジエビ

<テナガエビ科>

体長5セcmほどで、透き通った体に黒い横筋が入ります。水草が生えているような水路や池沼などで普通に生息しており、特に、県民の森とその周辺の沼で多くみられます。体の大きさや色などの変異が大きいという特徴があります。



クロツグミ

くツグミ科>

オスは上面が黒色です。腹は白地に三角形の黒斑が多数あります。夏鳥として渡来し、山地や低山の落葉広葉樹林に生息し繁殖します。「キョロキョロ キョコキョコ ココケィーコケー」などとさえずります。主に昆虫やミミズを食します。(夏鳥)



ノジコ

<ホオジロ科>

細くて白いアイリングがあり、夏鳥として渡来し、山地の林や林縁で繁殖しますが、分布は局地的です。「チンチンチョロリー チョリ チョッ」などとさえずります。主に草の種子を食べます。(日本固有種 夏鳥)



カケス

<カラス科>

低い山地に生息し、冬は平地にも下ります。フワフワと直線的に飛び、比較的警戒心が強い鳥です。「ジェーイジェーイ」 としわがれた大きな声で鳴き、他の鳥の声を真似ます。昆虫などのほかにドングリを食べます。(留鳥)



エナガ

<エナガ科>

尾は長く、体は丸くて小さく、平地、 丘陵山地の森林に生息しています。冬は 移動するものもいます。「ジュリリ ジュリリ」と少し濁った声で鳴きます。 カラ類との混群をつくり活発に活動しま す。地衣類とクモの糸で巣を作ります。 (留鳥・漂鳥)